

油絵具を塗り重ねて

@飼い猫

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

アリス・マーガトロイドという個人が象られるまでのおはなし。

目次

油絵具を塗り重ねて

1

油絵具を塗り重ねて

認識できるは腕の距離、見えない世界は分からない。

憧れたのは絵本の世界、ぬいぐるみみの国があつたら楽しそうだと思つたことだ。気まま勝手に動き回つて、翻弄されて追いかけて、笑つて疲れておやすみなさい。子供の空想、夢だけの世界。おはようと、こんにちはと、言つても返事をしてくれない。寂しく感じたのは何時頃か、挨拶を返して欲しくて指先から糸を伸ばした。

鏡に映る作り物の笑顔、人形のように綺麗だと皆に言われた。不思議に思つた懐かしい記憶。貴方に笑顔を向けて欲しくて、研究を始めたのが全ての始まりだ。綺麗だね、可愛いね。真心を込めて、人形に針を通す。目一杯にお洒落して着飾るのだ。何時の日か、ありがとう、と笑顔をくれる日を夢に見て。

外を見た、雪が積もつた。春先なのに雪溶けは来ず、不思議に思つて外に出た。

紅白と白黒によつて彩られた弾幕を見て、瞳に映る世界は目一杯に広がつた。認識できるは友達の数だけ、色んな冒険をいっぱいした。夢のような経験を沢山した。雪を吹き飛ばす満開の桜吹雪、悠久の美しさを保つ姫君、三日毎の宴会騒動、御転婆お嬢様と天空都市、地底の女主人に地底都市。それはまるで子供が夢見る世界、言葉を並べるだ

けで大冒険だ。

風が吹き抜けるように世界は広がった、認識するのも難しいくらいに世界は広くなつた。どこまでも飛び出せそうな気持ちになった時、ふと過去の私が寂しそうに服の裾を引つ張るのだ。

行つちやうの？ 変わらないわ。

進む足を止めることはできない。手は人形に触れるためにあつた、声は人形に語るためにあつた。今は両腕を目いっぱい伸ばして、満面の笑顔でくるくると走り出せる。世界は変わる、変わった分だけ私も変わる、ならわたしは必要ないね。そんなことはいわ。指先の糸を手繰り寄せて、人形を私の肩に乗せる。今は貴方と新しい世界を見てみたいと、お互いに満面の笑顔で語り合いたいと。それは夢のある話だね、と過去の私がかんだ。

もう絵本の世界は必要ない、子供の時に見た夢は過ぎ去つた。

埃被つた絵日記、色褪せた世界。ふと手に取つた拙い空想に苦笑い。大切に机の引き出しに入れて鍵を掛ける。部屋を出る。軽い足取り、油絵を塗り重ねるように世界は変わり続ける。向かう先には洒落た家具にお気に入りのティーセット、今日はこんなことがあつたね、と人形の手入れをしながら語り聞かせる。

いつか貴方のお話を聴けることを夢見て、布団に潜る。